

特定目的のための言語国際セミナー Language for Specific Purposes International Seminar

仁科喜久子*

2006年4月13日から15日までマレーシア・ジョホールバルにおいてマレー工科大学主催 Language for Specific Purposes International Seminar に参加した。このセミナーから見たマレーシアを中心とした周辺国の特定目的のための言語学習の現状について報告をする。

キーワード：特定目的のための言語学習、マレーシア、専門英語、専門日本語、企業における日本語使用

第5回 Language For Specific Purposes International Seminar LSP: Exploring New Frontiers という国際会議が4月13日から15日にかけてマレーシアの Johor Bahru で開催され、招待講演の依頼を受けて出席した。セミナーの目的は教師、専門家養成のニーズ、研究としての LSP に関する意見交換、企業と高等教育間の第2言語教育における連携推進である。出席者は200名で、東西アジアを中心にアメリカ、欧米など20カ国からの参加があった。

この LSP セミナーはマレーシア国内で English for Specific Purposes として20年前に始まったものが、5年前から Language For Specific Purposes と改名し、英語以外の外国語も加えた。しかしながら、依然として実際は英語が中心であり、ESP (特定目的のための英語)、EAP (English for Academic Purposes 学術目的のための英語)、EOP (English for Occupational Purposes) のさまざまな発表があった。このような中で今回マレー工科大学経営・人材開発学部 (Faculty of Management and Human Resource Development) 現代言語学科の唯一の日本語スタッフ Ramayah kumaraguru 専任講師 (筑波大学修士修了) が中心となり、国際交流基金の協力を得て今回はじめて日本語を対象にした JSP がこのセミナーに組み込まれた。

Key note Speech は特定目的のための英語教育で有名なミシガン大学の John Swales 教授であった。Swales 教授は「専門分野の英語についてどのようにして内容を理解するかを文の構造、準専門語、ディスコース分析を通して教育方法を研究していくことが

LSP の仕事だ」ということを強調した。

私は講演の中で日本における専門日本語研究として「専門日本語教育学会」の存在を伝え、なぜアジアのなかで JSP (Japanese for Specific Purpose) が必要か、専門日本語の中で扱っていること、今後はアジアを中心とした国々との協力体制を考えたいことなどを話した。

セミナーの最終日には全体会議が行われたが、全体の関心は英語教育であった。むしろアジア諸国では研究のための言語はますます英語の重要性が大きくなることが明らかになった。その中では「専門日本語」の存在が認められたことが収穫であったと言えよう。

一方、このセミナーに合わせて後援者である国際交流基金日本文化センターから根津誠専門員をはじめ専門家5名が加わり、現地で日本語を教えている日本人とマレーシア人の間で専門日本語をマレーシアにおいて展開する可能性についてセミナーを開いた。

マレーシアにおける日本語のニーズとしては日本留学と就職のための日本語能力養成などである。現時点では日本国内のように上級レベル到達は考えられない、しかしながら最近は大学における外国語としての日本語、中等教育における日本語教育が次々に開始され、交流基金もそこに力を入れている。カリキュラム作りにおいて最終目標をどうするかを策定する上で、専門日本語のあり方が検討された。

このセミナーに参加し、今後は海外の専門日本語も視野に入れての専門日本語の守備範囲を策定し、更なる展開の方法を講じる必要があると考えた。

*東京工業大学留学生センター教授